

【高橋館長からのメッセージ】

皆様、こんにちは。暑さも幾分和らいできたのでしょうか？今年も暑い夏となりました。夢の島熱帯植物館との名のとおり、植物館の大温室は、熱帯地域の気候に即した温湿度で保たれていますが、その温室よりも東京の夏は勝っていると感じます。ご来館された皆様も施設内に入って息を整えている姿を良く見かけました。来年の東京 2020 大会では、この暑さの中での競技となり、選手の方々の他、関係者や多くのボランティアの方々も暑さ対策をしっかりされて挑んでいただきたいと思います。

さて、これからの季節は実りの秋。例年、ご来館される方々に大変ご好評の大きな大きなお化けかぼちゃの展示を今年も植物館の前庭で行います。写真を撮って、手で触って、少し動かしてみたりして。実際にご覧頂くともとも驚くと思えます。

さいごに、今年も7・8月と開館時間を延長した夜間開館では、多くの方々にご来館いただきました。厚く御礼を申し上げます。また、工夫を凝らしたイベントや植物の展示で皆様をお待ちしております。

館長 高橋 将



▲「UMITUKI」(MKLabフォト作品)

季節イベントの紹介 (イベント・展示担当：関)

残暑が残る9月ですが、あちこちで秋の風情が漂ってきています。植物たちもホッとしたのが夏より少しだけ落ち着いて見えます。ゆったりとした時間を植物とともに過ごして下さい。

【9月の企画展】「食虫植物と熱帯の生きものたち展」(7/17~9/1)

「MKLab オリジナルフォト作品展」(9/3~9/23)

「ハロウィン・パーティー」(9/25~11/4)

《関連イベント》「ウィークエンドコンサート」(9/7・21)

「ハーブの学校」予約制 (9/1) 「森の学校」予約制 (9/7)

「お月見アレンジ教室」予約制 (9/8)

「大人のための秋のアレンジ教室」予約制 (9/29)

「敬老の日花鉢プレゼント」(9/16)

★詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館にお問い合わせください。

館内で見られる植物の紹介 (植物館植栽担当)

イランイランノキの花は夜に香るとも言われており、香料の原料で有名です。名前の「イランイラン」とはフィリピンのタガログ語に由来し、「花の中の花」という意味だそうです。フィリピン、マダガスカル、インドネシアが主な産地で、中でもアフリカ大陸東南部に位置するコモロ諸島で多く栽培されています。

バンレイシ科カナンガ属で、高さは15~20メートルほどになる常緑高木です。葉腋から出た蕾は開いてからもどんどん成長し、長さ8センチほどに伸びますが、生長が終わった時点でもあまりよい香りはしません。花弁は細長く、巻き上がって縮れた形状をしていて、垂れ下がって咲きます。咲き始めは淡い緑色で、伸び終わって黄色に変わると濃厚な甘い香りを発するようになります。

花は太陽が昇る前、新鮮なうちに摘みます。そうしないと太陽の熱で、精分が揮発してしまうからです。その花を集め、蒸留してとれる精油が香水原料となります。蒸留段階によって4段階のグレードに分類され、それぞれ香りや成分が異なります。



▲イランイランノキの花 (咲き始めは、淡緑色)



今月の花と果実



▲ ハナシュクシャ



▲ リコリス '小金井の華'



▲ ローゼル

♪この時期のお花たち♪

残暑厳しい中でも、植物は夏の終わりを感じています。この時期芳しい香りを放つ、気品に満ちたショウガ科の「ハナシュクシャ」。和名では甘草として知られる立ち姿が可愛いヒガンバナ科の「リコリス」。秋深まる程に赤みが増し見応えのあるアオイ科の「ローゼル」。この時期だからこそ見ることの出来る植物の魅力。

一度知ったら、
来秋も見たく
なるはず!



コーヒー・紅茶
一杯無料

【サービス券】団体不可